

給食だより



令和6年1月9日
千代田区立麹町小学校
校長 田村 砂弥香
栄養士 下野 なつき

今年もよろしくお願いいたします。子どもたちの健やかな成長と健康を願って、安全で安心でおいしい給食作りに努めてまいります。3学期もたくさん食べて、風邪に負けずに元気に過ごしてほしいと思います。



全国学校給食週間



日本の学校給食は、明治22年に山形県鶴岡市で始まり全国に広がりました。戦争で一時的に中断していましたが、LARA（アメリカの民間団体）などから援助物資を受けて昭和21年に東京、神奈川、千葉で再開されました。

同年12月24日に麹町小学校の前身である旧永田町小学校で、LARAからの給食用物資の贈呈式が行われ、それ以降、この日が「学校給食感謝の日」と定められました。

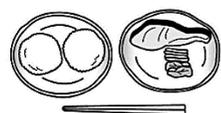
その後、冬休みに重ならない1月24日から30日を「全国学校給食週間」とし、栄養補給に限らず、教育の一環として行われる学校給食の意義や役割について、理解、関心を深める取り組みが全国で実施されています。

本校でも、最初の給食を再現した献立や、郷土料理など特別メニューを作ります。

給食の歴史

給食の内容も時代に合わせて変化してきました。当時の代表的な献立を一例に、学校給食の歴史をご紹介します。

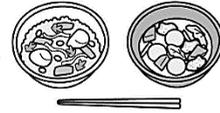
明治22年(1889年)



〔おにぎり、焼き魚、漬物〕

山形県の私立忠愛小学校で、お弁当を持ってこられない子どものために食事を提供したのが、日本の学校給食の始まりとされる。

大正12年(1923年)



〔五色ごはん、栄養みそ汁〕

9月1日に関東大震災が発生。義援金により給食が実施され、学校給食の価値が広く認められるようになる。

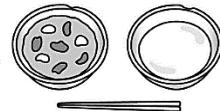
昭和17年(1942年)



〔すいとんのみそ汁〕

昭和16年に太平洋戦争が始まると、食料が不足し、全国的に給食が中止され始める。昭和19年に6大都市の小学生に特別配給物資による学校給食が実施される。

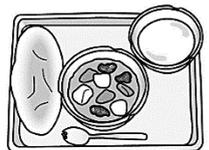
昭和22年(1947年)



〔ミルク(脱脂粉乳)、トマトシチュー〕

昭和20年に戦争が終わり、子どもたちの栄養状態を改善するため、この年から支援物資による学校給食が全国で開始される。

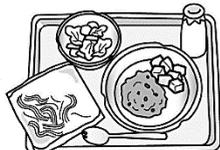
昭和25年(1950年)



〔コッペパン、ミルク(脱脂粉乳)、カレーシチュー〕

アメリカから寄贈された小麦粉で8大都市の小学生に「パン・ミルク・おかず」の完全給食が実施される。

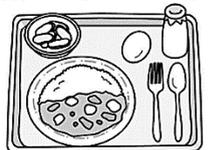
昭和40年(1965年)



〔ソフトめんミートソース、牛乳、フレンチサラダ〕

昭和38年に「ソフトめん」が登場。また、昭和39～43年ごろにかけて、脱脂粉乳から牛乳へと切り替わる。

昭和51年(1976年)



〔カレーライス、牛乳、塩もみ、ゆで卵〕

米飯(ご飯)が正式に導入される。当初は炊飯するための設備が整わず、おかずを作る釜でご飯を炊く施設が多かった。

そして、現在は…

子どもたちの食習慣の乱れ、偏った食事による肥満や生活習慣病の増加が心配されることから、学校給食は、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけるために、さまざまなことを学ぶ「生きた教材」としての役割を担っています。

学校給食の役割とは？

学校給食の始まりは、貧しい子供たちを栄養不足から救うためのものでした。

しかし、今では栄養補給の役割の他にも、食品を選択する能力、食事のマナー、感謝の心、季節の行事食や地域の食材、郷土食などについて学ぶ教材としての役割もあります。

ご家庭でも、給食や食事のマナー、季節の行事について話題にしてみてください。



給食だより感想フォーム

お便りの内容や給食についてなど、ぜひ感想をお寄せください。

